

志賀原子力発電所適合性審査資料

SK2-地050-04

2022年2月7日

# 志賀原子力発電所2号炉 敷地周辺の地質・地質構造について

補足資料  
(敷地周辺断層のM- $\Delta$ 図)

2022年2月7日  
北陸電力株式会社

---

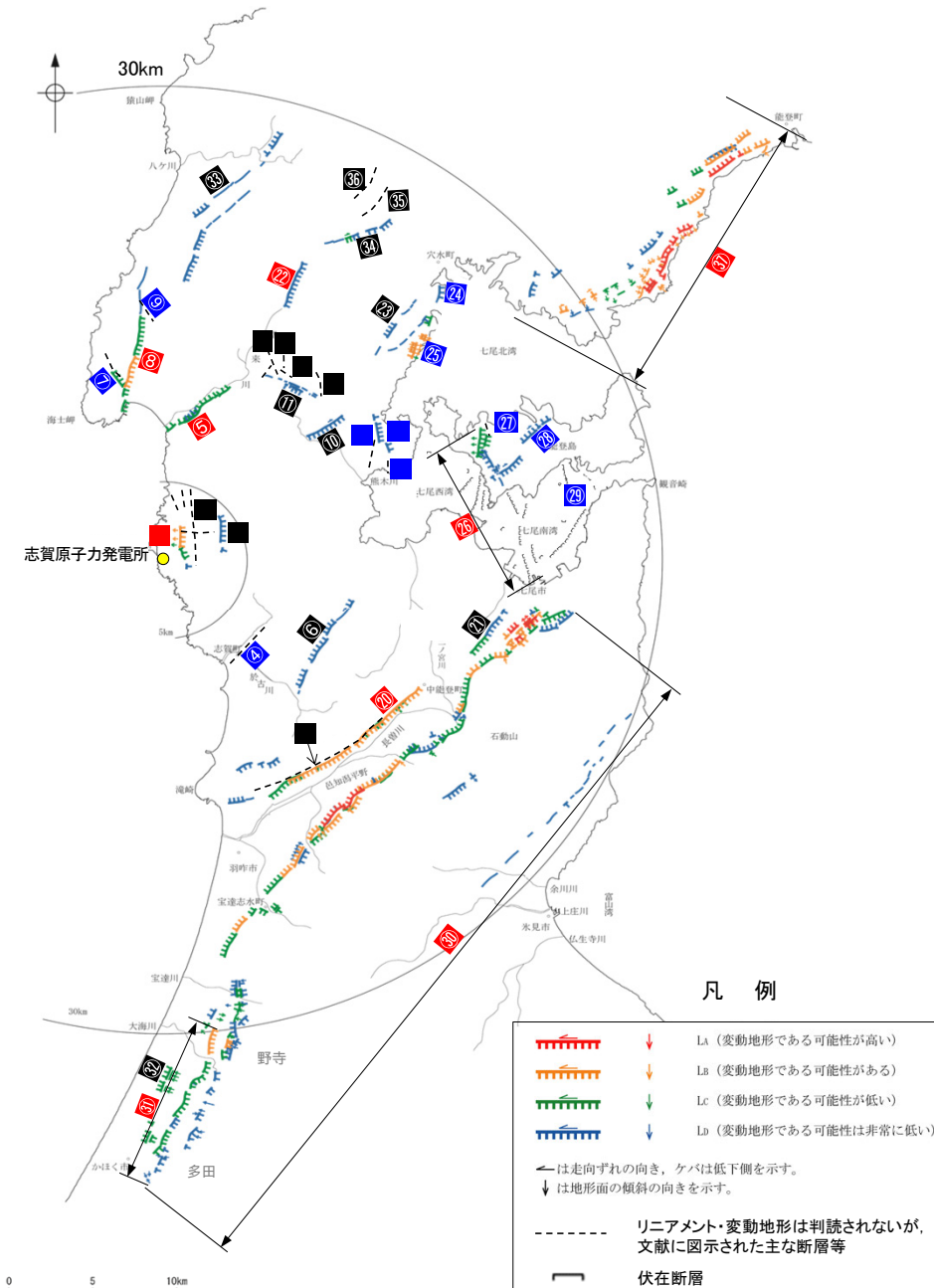
余白

---

## 補足資料2. 1-1

### 敷地周辺断層のM- $\Delta$ 図

# (1) 敷地周辺陸域(半径30km範囲)の断層評価概要



敷地周辺陸域(半径30km範囲)の断層分布図

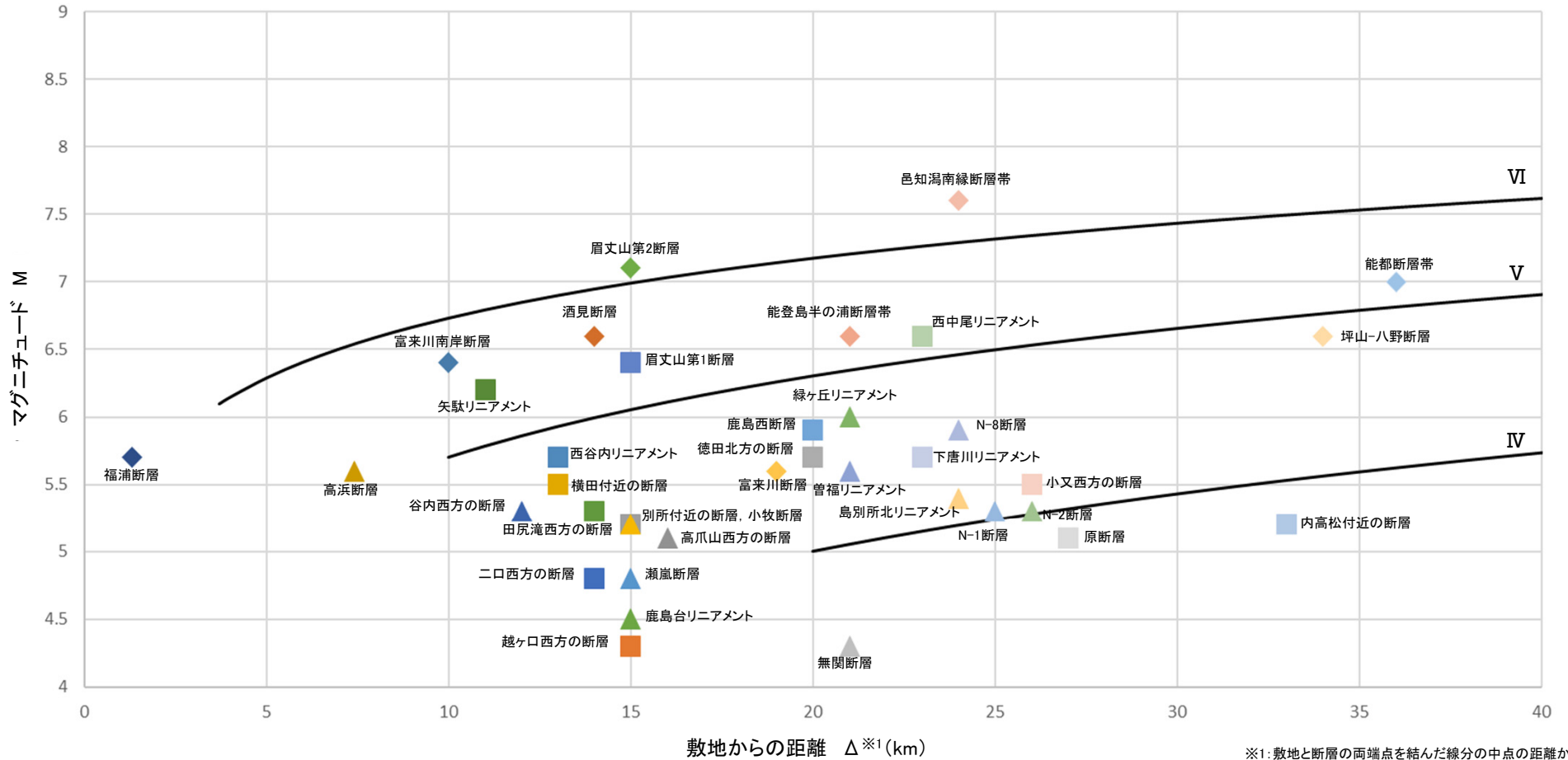
No.	名称	長さ※1	マグニチュード※2	敷地からの距離※3	
敷地近傍陸域	① 福浦断層	3.2km	—	約1.3km	
	和光台南の断層	(2km)		約2.9km	
	高ツボリ山東方リニアメント	(3.4km)		約2.9km	
	高ツボリ山北西方Ⅰリニアメント	(0.5km)		約3.7km	
②	高ツボリ山北西方Ⅱリニアメント	(0.8km)	約3.8km		
	約3.7km				
③ 長田付近の断層	(2.5km)		約3.7km		
④ 高浜断層	(3km)	5.6		約7.4km	
⑤ 富来川南岸断層	9.0km	6.4		約10km	
⑥ 矢駄リニアメント	(6.8km)	6.2		約11km	
⑦ 谷内西方の断層	(2km)	5.3		約12km	
⑧ 酒見断層	11.0km	6.6		約14km	
⑨ 高爪山西方の断層	(1.5km)	5.1		約16km	
⑩ 横田付近の断層	(2.5km)	5.5		約13km	
⑪ 西谷内リニアメント	(3.3km)	5.7		約13km	
⑫ 田尻滝西方の断層	(2km)	5.3		約14km	
⑬ ニ口西方の断層	(1km)	4.8		約14km	
⑭ 越ヶ口西方の断層	(0.5km)	4.3		約15km	
⑮ 別所付近の断層	(1.7km)	5.2		約15km	
⑯ 小牧断層	(1.7km)	5.2		約15km	
⑰ 瀬嵐断層	(1km)	4.8		約15km	
⑱ 鹿島台リニアメント	(0.6km)	4.5		約15km	
敷地周辺陸域	⑲ 眉丈山第1断層	(9km)	6.4	約15km	
	⑳ 眉丈山第2断層	23.0km	7.1	約15km	
	㉑ 徳田北方の断層	(3.4km)	5.7	約20km	
	㉒ 富来川断層	3.0km	5.6	約19km	
	㉓ 鹿島西断層	(4.4km)	5.9	約20km	
	㉔ 緑ヶ丘リニアメント	(5.2km)	6.0	約21km	
	㉕ 曾福リニアメント	(2.9km)	5.6	約21km	
	㉖ 能登島半の浦断層帯	11.6km	6.6	約21km	
	㉗ 無関断層	(0.5km)	4.3	約21km	
	㉘ 島別所北リニアメント	(2.2km)	5.4	約24km	
	㉙ 七尾湾調査海域の断層※4	N-1断層	2.0km	5.3	約25km
		N-2断層	2.0km	5.3	約26km
N-8断層		4.5km	5.9	約24km	
㉚ 邑知湯南縁断層帯	44.3km	7.6	約24km		
㉛ 坪山-八野断層	11.8km	6.6	約34km		
㉜ 内高松付近の断層	(1.7km)	5.2	約33km		
㉝ 西中尾リニアメント	(11km)	6.6	約23km		
㉞ 下唐川リニアメント	(3.3km)	5.7	約23km		
㉟ 小又西方の断層	(2.5km)	5.5	約26km		
㊱ 原断層	(1.5km)	5.1	約27km		
㊲ 能都断層帯	19.8km	7.0	約36km		

断層評価結果

①	後期更新世以降の活動が否定できない断層等
②	後期更新世以降の活動が認められない断層等
③	対応する断層が認められない

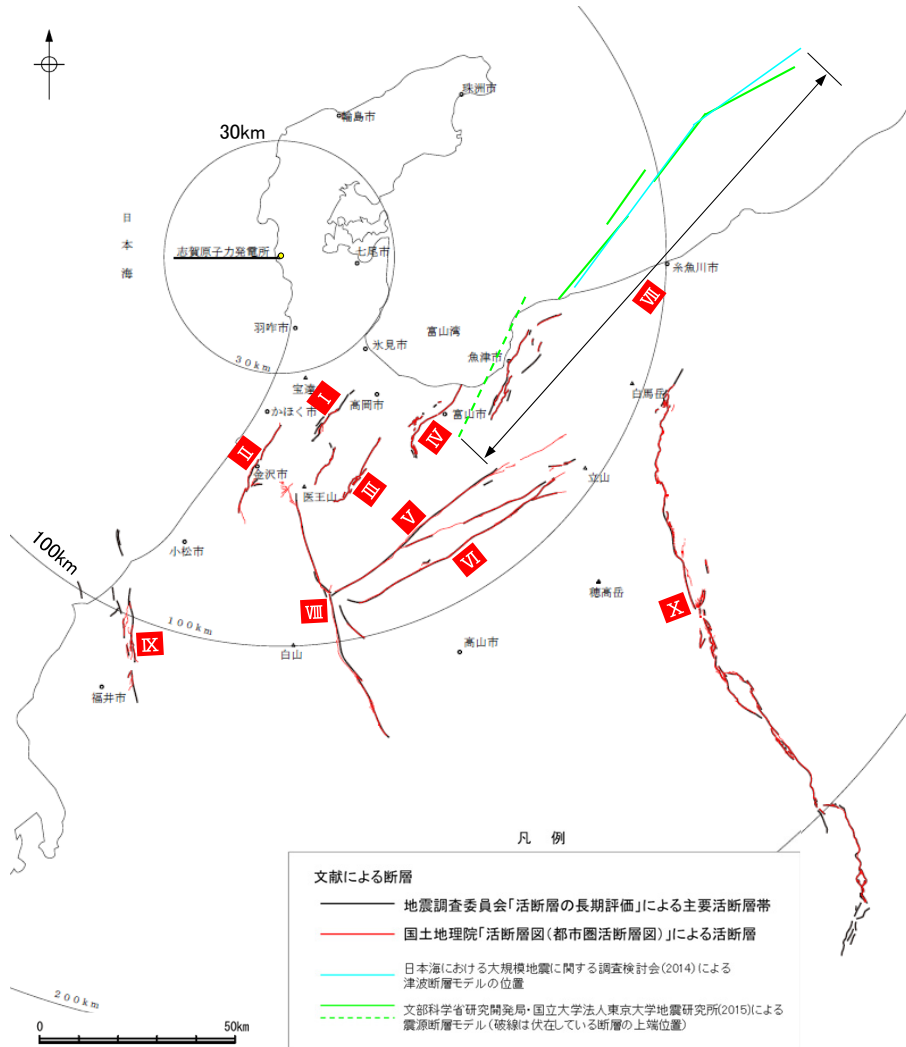
※1: ( )内の長さはリニアメント・変動地形または文献に示された長さ。  
 ※2: Mは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。  
 ※3: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint から算出。  
 ※4: 能登島半の浦断層帯と併せて説明するため、陸域の断層として整理。

# 【M-Δ図(敷地周辺陸域(半径30km範囲)の断層)】



・MIは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。  
 ・IV, V, VIは、旧気象庁震度階級で、震度の境界線は村松(1969), 勝又・徳永(1971)による。

## (2) 敷地周辺陸域(半径30km以遠)の断層評価概要



敷地周辺陸域(半径30km以遠)の断層分布図

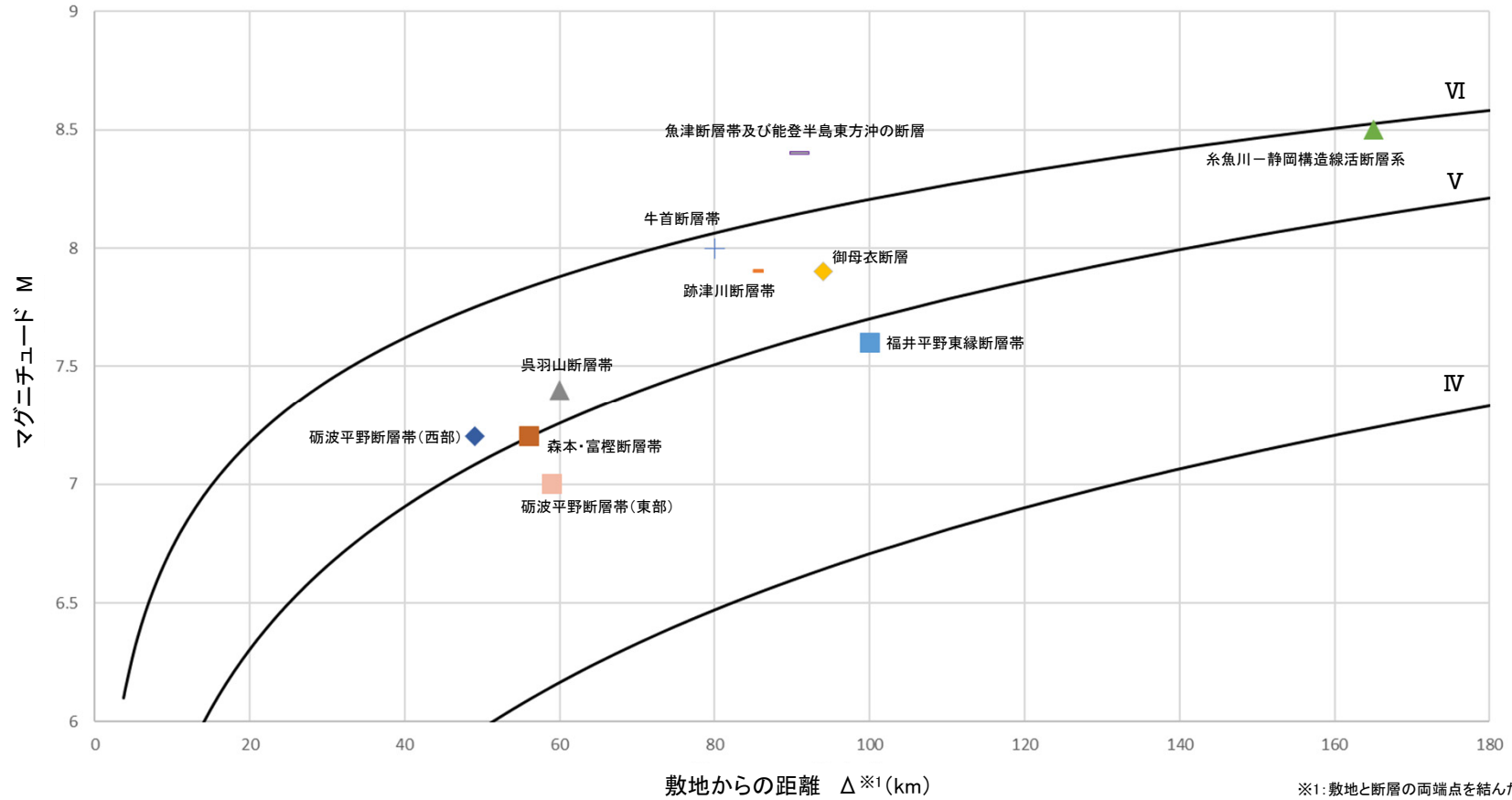
No.	名称	長さ	マグニチュード <sup>※1</sup>	敷地からの距離 <sup>※2</sup>
I	砺波平野断層帯(西部)	26km	7.2	約49km
II	森本・富樫断層帯	27km	7.2	約56km
III	砺波平野断層帯(東部)	21km	7.0	約59km
IV	呉羽山断層帯	35km	7.4	約60km
V	牛首断層帯	78km	8.0	約80km
VI	跡津川断層帯	69km	7.9	約85km
VII	魚津断層帯及び能登半島東方沖の断層	132km	8.4	約91km
VIII	御母衣断層	74km	7.9	約94km
IX	福井平野東縁断層帯	45km	7.6	約100km
X	糸魚川-静岡構造線活断層系	158km	8.5	約165km

断層評価結果

① 後期更新世以降の活動が否定できない断層等

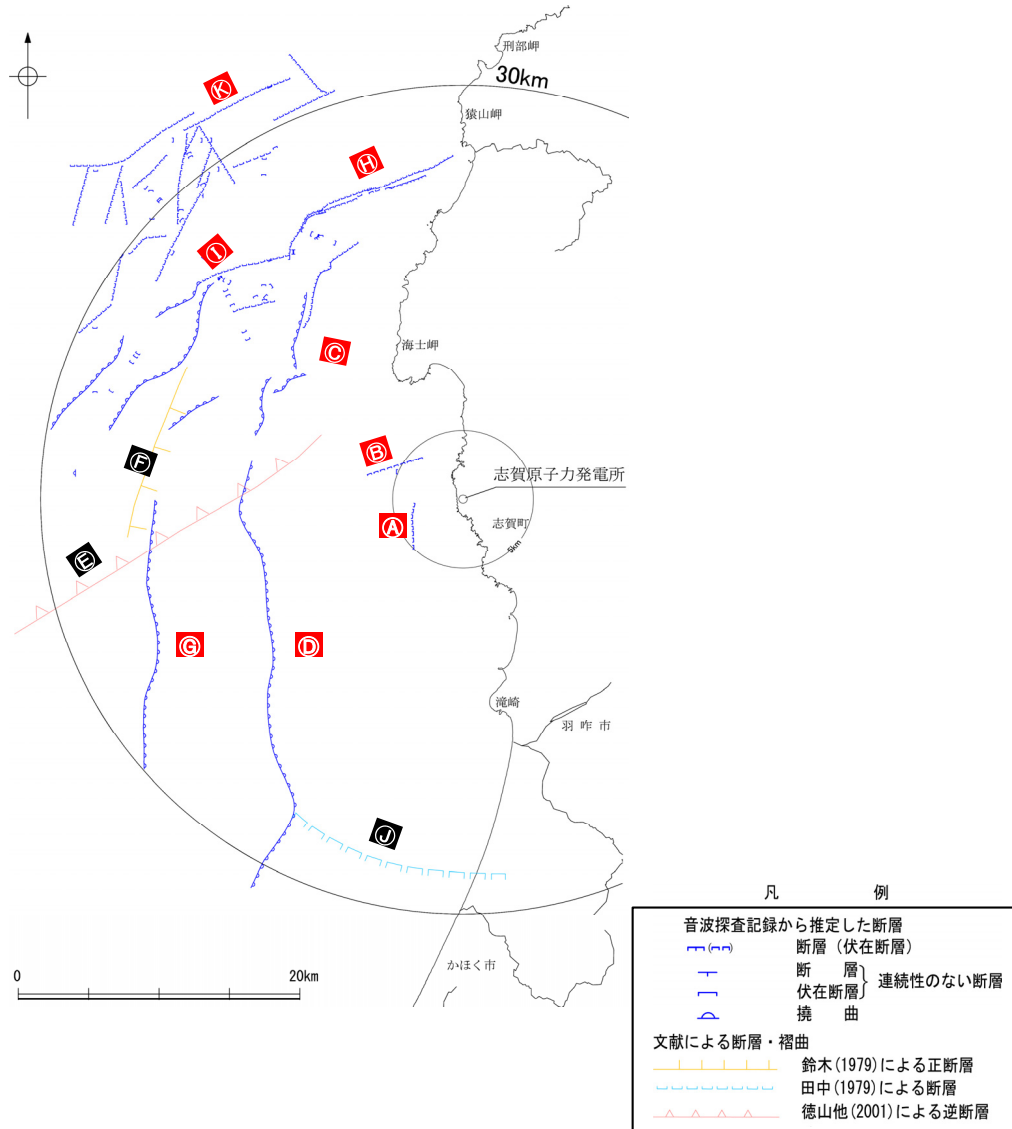
※1: Mは、松田(1975)による断層長さ<sup>1</sup>とマグニチュードの関係式による。  
 ※2: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint の距離から算出。

## 【M-Δ図(敷地周辺陸域(半径30km以遠)の断層)】



・Mは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。  
 ・IV, V, VIは、旧気象庁震度階級で、震度の境界線は村松(1969), 勝又・徳永(1971)による。

# (3) 敷地周辺海域(半径30km範囲)の断層評価概要



敷地周辺海域(半径30km範囲)の断層分布図

	No.	名称	長さ※1	マグニチュード※2	敷地からの距離※3
敷地近傍海域	A	兜岩沖断層	4.0km	5.8	約4.0km
	B	基盤島沖断層	4.9km	6.0	約5.5km
	C	海士岬沖断層帯	17.5km	6.9	約16km
	D	羽咋沖東撓曲	33.6km	7.4	約20km
敷地前面調査海域	E	徳山ほか(2001)の断層	(26km)	7.2	約21km
	F	鈴木(1979)の断層	(13km)	6.7	約22km
	G	羽咋沖西撓曲	23.0km	7.1	約24km
	H	笹波沖断層帯(東部)	20.6km	7.0	約24km
	I	笹波沖断層帯(西部)	24.5km	7.1	約24km
	J	田中(1979)の断層	(16km)	6.8	約25km
	K	前ノ瀬東方断層帯	29.5km	7.3	約28km

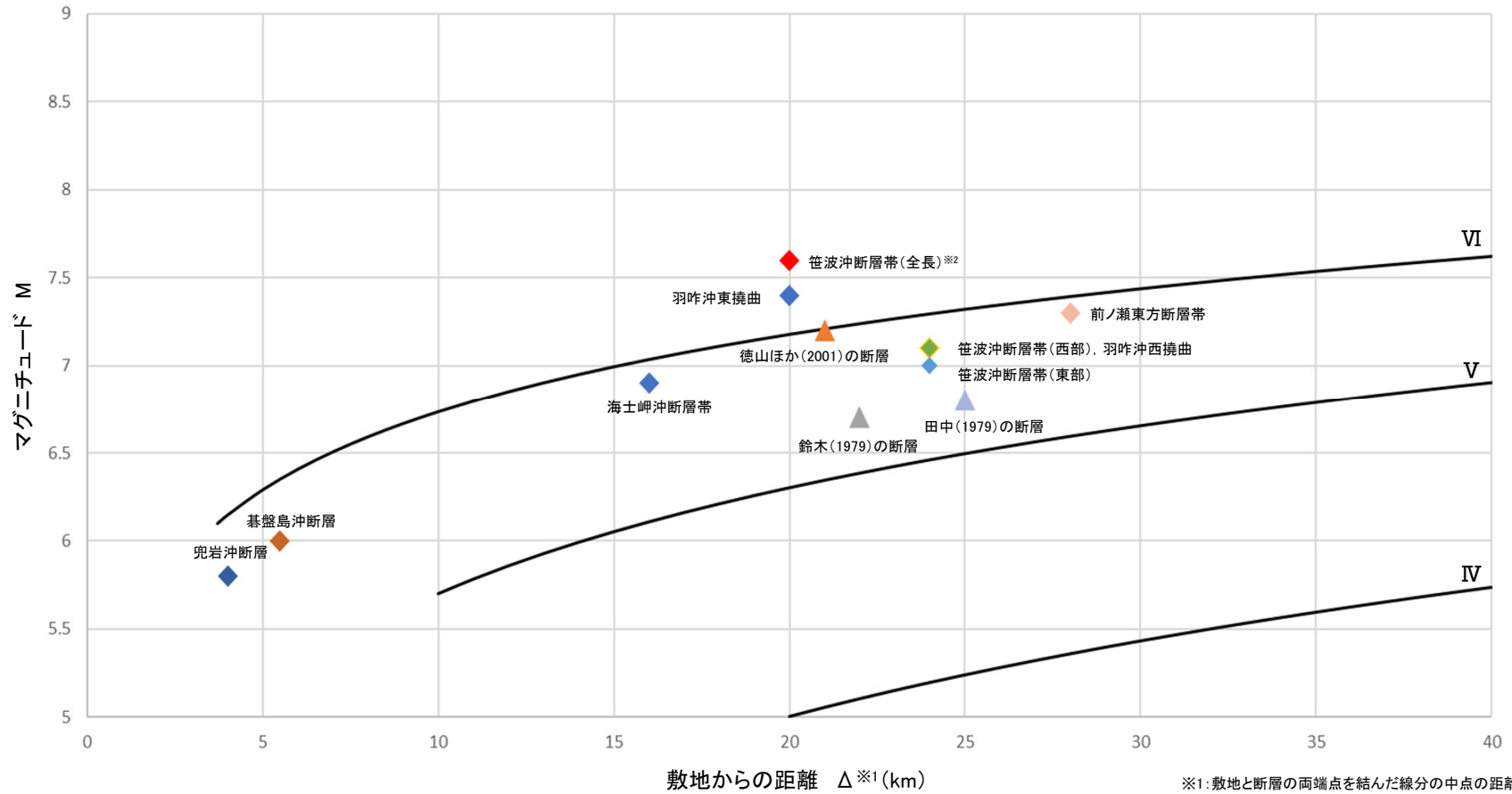
断層評価結果

- ① 後期更新世以降の活動が否定できない断層等
- ② 対応する断層が認められない

※1: ( )内の長さは文献に示された長さ  
 ※2: Mは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。  
 ※3: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の中点の距離から算出

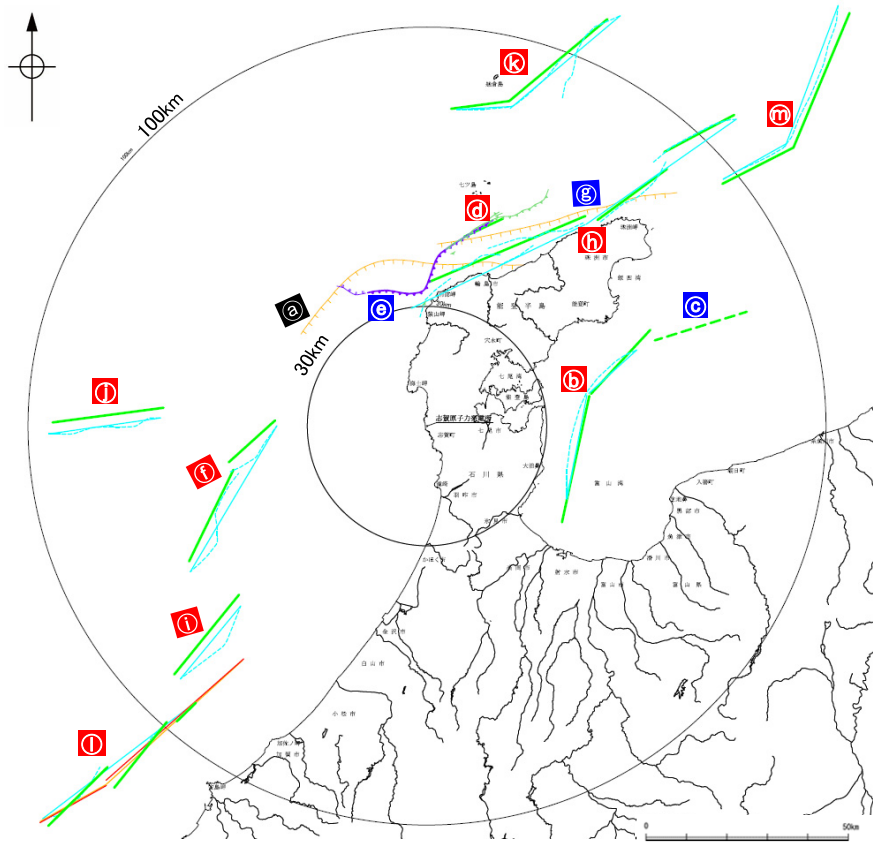


## 【M-Δ図(敷地周辺海域(半径30km範囲)の断層)】

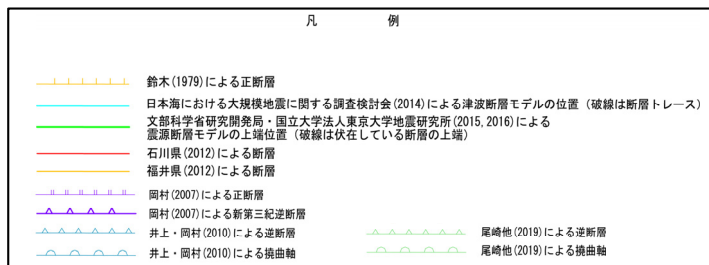


・Mは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。  
 ・IV, V, VIは、旧気象庁震度階級で、震度の境界線は村松(1969), 勝又・徳永(1971)による。

# (4) 敷地周辺海域(半径30km以遠)の断層評価概要



敷地周辺海域(半径30km以遠)の断層分布図



No.	名称	長さ※ <sup>1</sup>	マグニチュード※ <sup>2</sup>	敷地からの距離※ <sup>3</sup>
a	F <sub>U</sub> 2	(60km)	7.8	約32km
b	富山湾西側海域の断層	富山湾西側海域断層	53km	約45km
c		TB3	(24km)	約73km
d	猿山岬北方沖の断層	猿山岬北方沖断層	41km	約51km
e		猿山岬以西の断層	(24km)	約36km
f	F47	43km	7.6	約52km
g	F <sub>U</sub> 1	(63km)	7.8	約61km
h	能登半島北部沿岸域断層帯 (猿山沖セグメント・輪島沖セグメント・ 珠洲沖セグメント・禄剛セグメント)	96km	8.1	約65km
i	F50	26km	7.2	約76km
j	F48	28km	7.2	約80km
k	F44	50km	7.7	約95km
l	F51	65km	7.9	約106km
m	F42	57km	7.8	約122km

断層評価結果

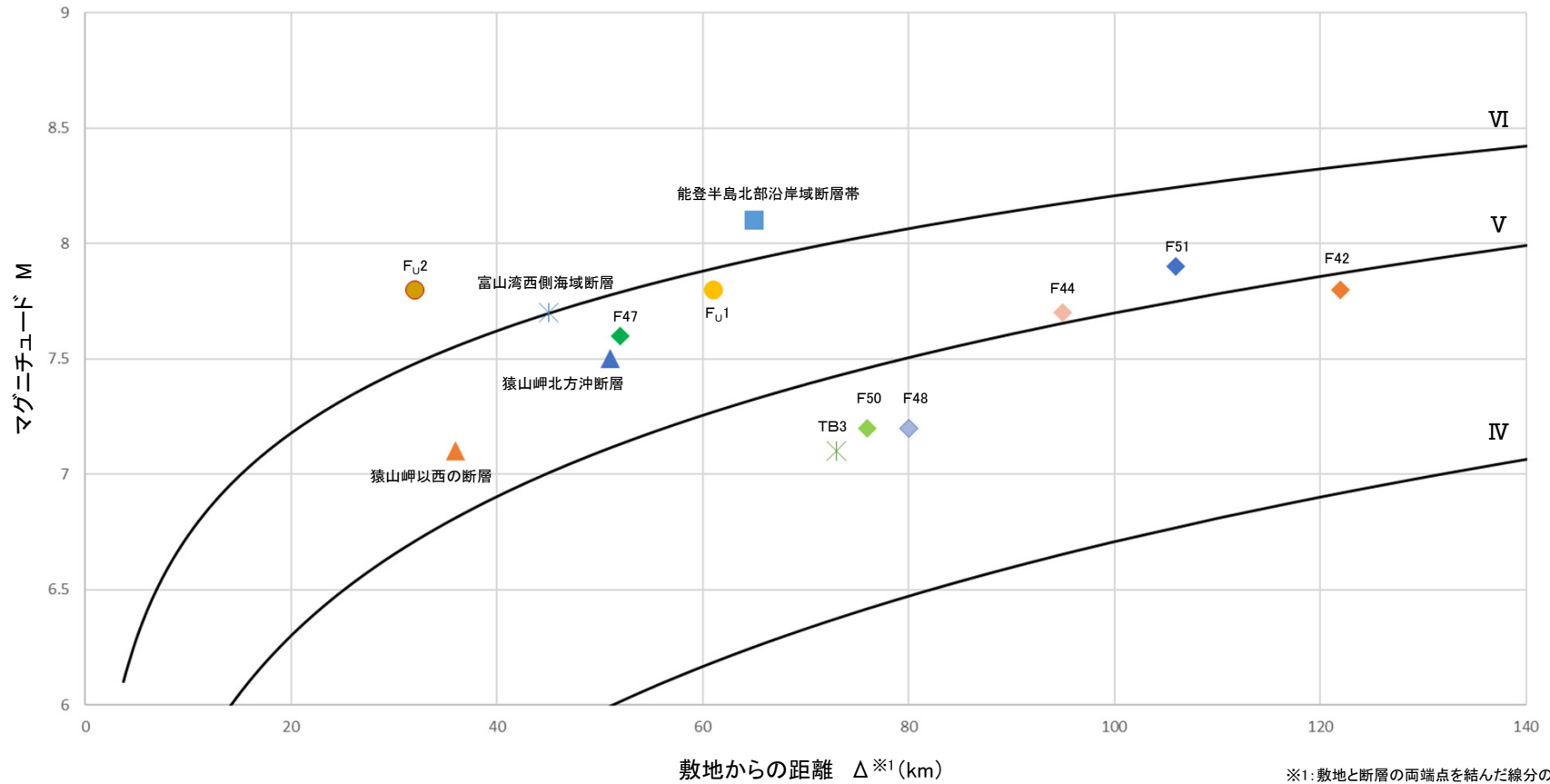
- ① 後期更新世以降の活動が否定できない断層等
- ② 後期更新世以降の活動が認められない断層等
- ③ 対応する断層が認められない

※1: ( )内の長さは文献に示された長さ

※2: Mは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。

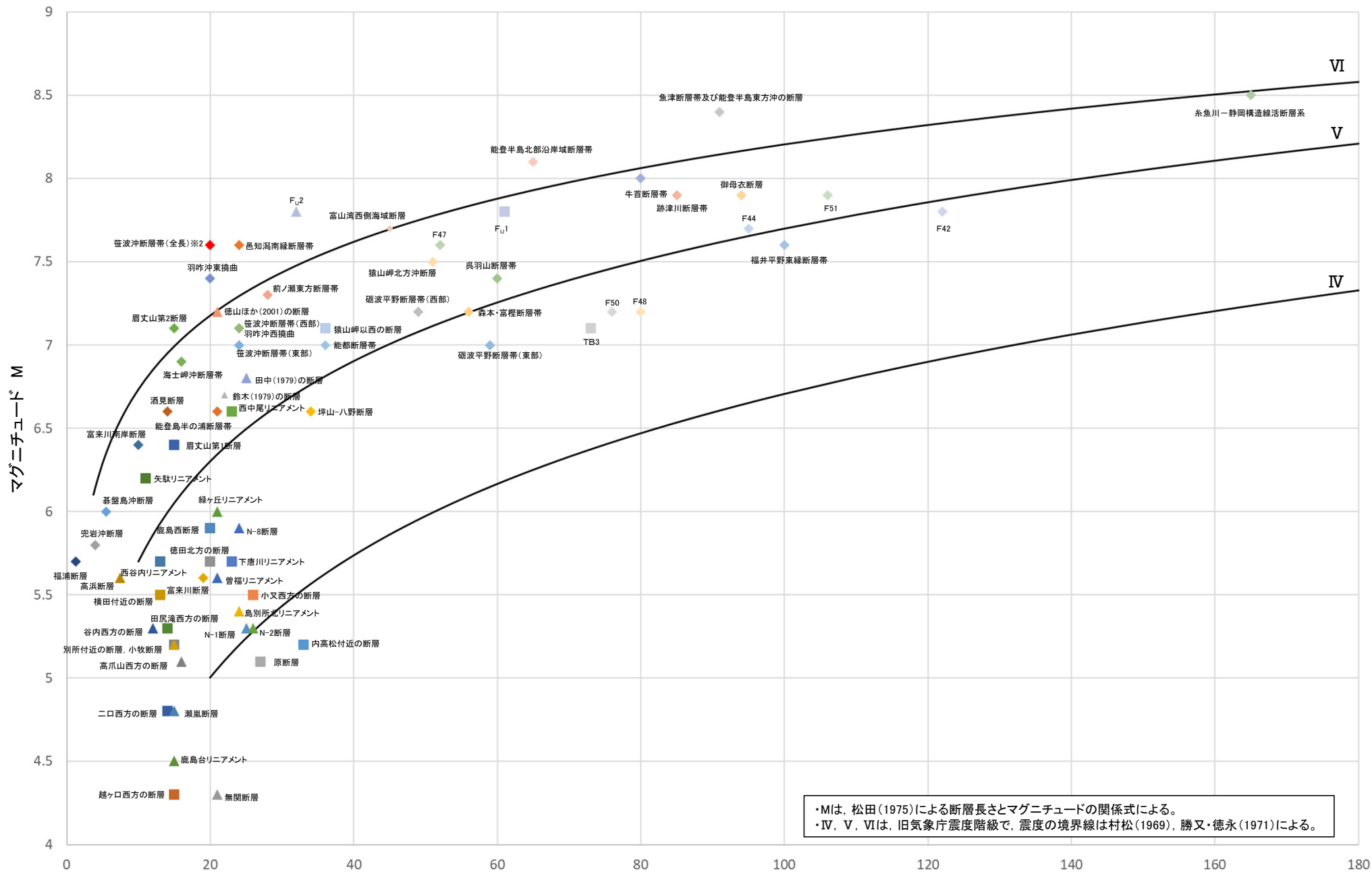
※3: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint の距離から算出

## 【M-Δ図(敷地周辺海域(半径30km以遠)の断層)】



・Mは、松田(1975)による断層長さとマグニチュードの関係式による。  
 ・IV, V, VIは、旧気象庁震度階級で、震度の境界線は村松(1969), 勝又・徳永(1971)による。

# (5) 敷地周辺断層のM-Δ図



・Mは、松田(1975)による断層長さとの関係式による。  
 ・IV, V, VIは、旧気象庁震度階級で、震度の境界線は村松(1969), 勝又・徳永(1971)による。

※1: 敷地と断層の両端点を結んだ線分の midpoint の距離から算出。  
 ※2: 地震動評価における笹波冲断層帯(全長)の断層長さ45kmを基に図示。

敷地からの距離 Δ<sup>※1</sup>(km)

---

余白